

公益社団法人私立大学情報教育協会  
平成 25 年度第 2 回大学情報システム研究委員会議事概要

- I. 日 時：平成 25 年 11 月 30 日(土) 15:00 から 17:00 まで
- II. 場 所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）6F 貴船
- III. 参加者：疋田担当理事、岩井委員長、片岡委員、小川委員、森本アドバイザー  
アドバイザー賛助会員：朝日ネット、ニッセイコム、富士通マーケティング  
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本（記）

IV. 検討事項

1. 事例研究

「eポートフォリオの導入と活用、今後の課題」として、大阪府立大学高等教育推進機構教授の星野聡孝先生より説明を受けた。

- ・ 導入の経緯をして、授業アンケートを止めることで見直し案として検討された。アンケートでは学生から評価される抵抗感や満足度のみの注目など課題があり、学生のメリットがみいだせなかった。
- ・ 検討では、学生の学びを知ること、継続的に蓄積し、振り返りが大切である。
- ・ ポートフォリオは、学生の学修自己評価を中心に考え、学生は目標設定、授業、自己評価、振り返りの PDCA を考慮している。
- ・ 学修自己評価では6段階評価の記述式（プロセスと達成度）にしており、学生から教員へのメッセージと考えてもいる。
- ・ ねらいとして、自身と授業と大学の目標を意識させ、学びの動機づけとしている。
- ・ 活用としては、振り返りと気づき（プロセスの可視化）で PDCA サイクルにもとづく品質管理を進めており、学生及び教員のためのポートフォリオとしており、組織としてのデータ活用もしている。
- ・ カリキュラムマッピングなどで見せる形はどうかの質問があったが、手間がかかるなど複雑にしたいくなかったので、シンプルな形とした。
- ・ 全学での利用には、教員の温度差があり協力が課題にはなっている。

2. ポートフォリオの課題について委員の意見

- ・ ポートフォリオは万能薬ではなく、ツールとしての認識が必要。
- ・ 論理段階では、質保証のために求められる役割・機能として「学修成果の蓄積」「学びと教育の見える化」「学修の深化」「学修行動の把握」「教育プログラムの評価ツール」「IRのためのデータ」などが考えられる。
- ・ 実践段階としては、コンセンサス「導入目的・必要性の認識」、普及・促進「参画への戦略」、人的・財政的資源、技術的問題「既存システムとの整合性」「教員のリテラシ」「技術者のサポート」「運営財源」の項目が考えられ、実施形態・方法では「カリキュラムへの組込み」「対象科目の選択」「教育方法との組み合わせ」「記入時期・期間の接待」「教員からの助言方法」などの検討が必要。また真実性の確保のための仕掛けと動機づけが必要。
- ・ 授業や課外活動も含めるものが良いかとしても一気には難しい。場合によってはカリキュラムの変更も考えられるが一気には難しい。
- ・ シラバスとの連携、システム連携が必要とされる。
- ・ 著作権や肖像権に関しての指摘がある。

- ・ 社会人になっても継続してデータを利用することの要請と問題点がある。
- ・ 人的要因が不足している。
- ・ 各大学でポートフォリオの定義がバラバラである。課題解決にポートフォリオや就職に向けたキャリア形成など。
- ・ 目標、結果へ初年次にケアしないと進められない。企業現場でも人事評価指導がある。
- ・ 導入前に完成したシステムとすることは難しい。
- ・ レベル、フェーズに分けてマトリックスが考えられる。理念・哲学とシステムの問題、大学全体レベル、プログラムレベル、授業レベル、学生側と教員側など。
- ・ ポートフォリオはやってきたことのプロセス、プロダクト。eポートフォリオはコミュニケーションがとれる。
- ・ 定義などを明確に示す必要がある。
- ・ 学生の能動的な支援になるので、学生のメリットが必要ではないか。学生に、どのようにつながっているかを見せることが必要、羅針盤としての意味、自分の到達度があると励みになると考えられる。学生からメリットが見える必要があり、学生の主体性を育むために、学生を支援する教職員、ファシリテーター、社会・企業の協力が求められる。
- ・ 双方向性がないと義務感が大きい。教員が指導することができるプロセスが解析できるものがあれば、学生・教員にメリットが出るのではないか。ただし負担にならないことが条件となる。
- ・ ポートフォリオの結果から指導するための効果的な指導プランや支援プログラムが期待されているする。
- ・ 組み合わせ、仕掛け、仕組みを定義で認識させる必要がある。

#### V. 今後のスケジュール

- ・ ポートフォリオの定義、役割、機能について、①学生から見た定義、②求められる役割・機能（学生、教員それぞれについて）次回検討することにした。
- ・ 次回委員会は、12月または1月に開催することをメールで調整することにした。